

contents

ご挨拶.....	1
海外農業研修 2021-2022	2
研修生からの便り.....	3,4
アジア農業青年人材育成事業	5
JAEC 技能実習生事業	6
協会の動き.....	7
協会の行事・関係者の動向.....	8

ニューファーマーズ 249 号から、オンラインでもご覧いただけます。
本会ホームページに掲載するほか、Email でも配信します。



欧州研修生の春季会合はスイスで開催しました。麗しのアルプスの山々



ニューファーマーズ No.252 |
2022 年 (令和 4 年) 7 月 (年 2 回 1 月、7 月発行)
ホームページ: <https://www.jaec.org>
フェイスブック: <https://www.facebook.com/jaec.trainee>



編集・発行 / 公益社団法人国際農業者交流協会
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 5-27-14 日研アラインビル 8 階
TEL: 03-5703-0251 (総務部) 03-5703-0252 (派遣業務課)
03-5703-0253 (活動支援課) 03-5703-0254 (受入業務課)
FAX: 03-5703-0255

世界情勢の中で農業人材の育成を考える

会長 野中和雄



コロナ禍当初のマスクなどの不足やウクライナ戦争による食料価格の高騰を目の当たりして、わが国でも食料安全保障の議論が高まっている。またテレワークが広がる中で、都会から地方へ移住も進んでいる。いずれも農業農村振興の観点からは追風ともいえる動きだが、果たして長続きするのかとも思う。

だが考えてみると、日本人の価値観は阪神淡路大震災、東日本大震災を経て大きく変わってきた。ここ十数年、私は有識者の方々の協力を得て青山学院大学で農業農村に関する講座を開設してきたが、必修科目でもないのに毎年多くの都会の学生が受講し食・農・里に強い関心を示している。また、やはり有識者の方々と長年、中山間地域振興のボランティア活動をしてきたが、近年、田園回帰や関係人口の潮流は着実に拡大している。

今後においても、いつまたコロナのような感染症が流行らないとも限らないし、震災にしても首都直下地震は「30 年以内に 70% の確率」、富士山噴火は「スタンバイ状態」、南海トラフ地震は 2030 ~ 2040 年の間、という。わが国の経済力はと言えば、世界の輸出総額に占める日本発の輸出のシ

ェアは 1998 年から 24 年間で半減し、世界の農産物貿易においても日本は中国に買い負けているという。

こうしてみると、今後の日本においては、やはり農業を振興しある程度の自給力を維持しつつ、地域資源を活用して地域の活性化を図っていくことが国の基本方針でなければならない。幸いデジタル技術の進歩でスマート農業、遠隔医療、遠隔教育などの可能性も広がり、再生可能エネルギーの活用も進み、中山間地域などの条件不利性も改善されつつある。(私も編集に加わった「中山間地域ハンドブック」(農文協)をご覧ください。)

ただ農村地域がこのような新しい時代を切り拓いていくためには、人材の育成が急務であり、特にこれからは海外での経験が必須であろう。グリーンリーフ・野菜倶楽部を運営する澤浦彰治氏の話では、同社では海外農業を経験した社員ほど活躍しており、後継者の方も海外で学んでいるという。協会が推進する海外農業研修も、せっかく国から多額の支援が得られるようになったのに、PR が進んでいないのは残念ではない。若い人にしてみれば、年齢の近い先輩から話を聞く方が親身に感じられると思うので、中堅・若手の海外研修生 OBOG の方々が自らの経験と夢を後輩たちに語っていただき、海外農業留学のすばらしさを紹介していただくようお願いしたい。



海外農業研修 2021-2022 WHAT'S THE NEWS?

アメリカ

- ・6月24日に31名の研修生が渡米しました。
- ・渡航時期が6月になったことから、4月以降(大学や農業大学校を卒業後)国内のOB・OG農家で実習を積むことができるようになりました。これにより、農業経験が少ない研修生達があらかじめ農作業のノウハウを得ることができるようになっています。



令和3年度アメリカコース研修生たち

ヨーロッパ

- ・オランダ研修生7名は3月16日に、そしてスイス3名とドイツ1名は3月21日にそれぞれ出発しました。
- ・欧州の研修に参加するにあたり必要となる滞在許可の申請基準が厳格化され、今は農業系4大を休学または卒業した方しか参加できない状況になってきています。しかし、各国で度々条件が変更されるため、随時ホームページなどで最新情報を公開していきます。



欧州研修生春季会合はスイスで!

オーストラリア

- ・3月30日に11名の研修生が飛び立ちました。そのうち7名の研修生はコロナ禍で延期をすることとなったメンバーでした。
- ・クイーンズランド州にあるボーエン(Bowen)という町で園芸(野菜・マンゴー)の研修をしています。今はトマトやパプリカ(Capsicum)などの果菜類の生産、珍しいところでは、テキーラの原料となるリュウゼツランの農家などもあります。
- ・研修生はボーエンの町の中の家で共同生活をしながら各農場へ通っています。



オーストラリア研修生たち

まだまだ研修生募集中!

令和4年度の海外農業研修生の募集期間は9月30日までです。ぜひご家族、お知り合いの若者にご紹介ください。研修に関する情報は、本会のホームページ、Facebook、Instagram、LINEなどでご紹介しています。

畜産ティーン育成プロジェクト

今年度の高校生の海外研修プロジェクトは、オンラインを駆使してデンマークの畜産を学ぶこととなりました。

全国から19名の高校生が参加しています。8月にオンライン研修を行い、9月29日には、YouTubeで報告会を行う予定です(どなたでもご覧いただけます)。



AIG損害保険株式会社



東京法人営業統括部
東京コーポレートキャリアエージェント営業部
営業1課 担当: 窪田

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル 17F
TEL: 03-5637-0721 FAX: 03-3622-2040

Hakusan 株式会社ハクサン

海外研修を受けた皆さん、
私たちと一緒に働いてみませんか。

当社は園芸分野で国際的なビジネスを展開する種苗会社です。詳細は下記まで
〒470-0104 愛知県日進市岩藤町三番割321-1 TEL.0561-75-5777(代) FAX.0561-75-5776
E-mail: info@hakusan1.co.jp https://hakusan1.co.jp/

研修生からの便り



後悔のない現在を生きる

内田 海斗（令和2年度アメリカ研修生 / 埼玉県出身）
研修農場：Gebbers Farm

皆さんこんにちは。私は現在アメリカの大規模果樹農園で研修をしています。品目はアップルとチェリーが大半で少しだけ洋ナシがあります。肉牛部門もありますが、果樹の面積だけで5000haあります。東京ドームで例えると約1100個分の面積らしく、想像すら難しいですね。このGebbers farmsは家族経営を主体としていて、収穫期には季節雇用のメキシコ人が約4000人、ジャマイカ人が約500人働きに来ます。一緒に働く人はメキシコ人が大半で、耳に入ってくるBGMはすべてスペイン語です。た



まに会うジャマイカ人は英語だけど、訛りが強すぎて到底英語には聞こえませんでした。メキシコ人のワーカーとは、一緒に働いているうちに少しの英語と少しのスペイン語だけの会話で意味が伝わるようになり、コミュニケーションが取れることに喜びを覚えました。

家族経営で、家の女性は主にオフィス内で働いていて、男性はそれぞれ農場、流通、選果場、マーケティング等、様々な分野のボスをしています。家族経営の大規模経営だからこそ、ほとんどのことを分業し、家族+ワーカーで1つの会社を作り上げているように感じました。

“何があろうと、死ぬこと以外はかすり傷”私はこの言葉を座右の銘にし、日々を生きるようにしています。何かに挑戦したいけど失敗が怖い時、やりたいことがあるけど周りから反対や心配されるとき、このような時にこの言葉を思い出すようにしています。ほかの誰のでもない、自分の人生を自分の選択で生きていく。私は、例え失敗し後悔したとしても、挑戦すればよかったと



農場主と一緒に

農園のりんご



後悔するよりは圧倒的に後悔の価値が高いと考えます。

コロナ禍での渡航。親と親戚に若干の反対をされつつも渡航を決意したとき、頭の中ではすでに決まっていたのです。

私はこの海外研修の目的の1つに、アメリカの大規模経営を学びたいというのがあります。私の家も家族経営で果樹を含む複合農業をしているので、将来のためにたくさん吸収できるこのチャンスをしっかり活かし、最高の出会いと思い出をつくりたいと思います。

私の研修の心構え

一條 瑞穂（令和3年度スイス研修生 / 千葉県出身）
研修農場：Fam. Ralph Altwegg



私は、農業大学の研究科2年目を休学してJAECの農業研修に参加し、現在は、スイスの酪農と畑作の兼業農家のもとで研修をしています。広大な牧草地や畑、大きな機

械、日本にはない景色や食べ物等、新しい発見が多く新鮮な日々を楽しく過ごしています。酪農の作業は搾乳、放牧、牧草刈り、牧草地の電柵張り等を行っています。野菜はジャガイモが主で、その他玉ねぎや人参、セロリ等を転作で栽培しています。

私の日課の仕事は搾乳です。早朝4時半からの搾乳は、起きることが大変だけれど、頭を働かせて頑張っています。日中の仕事は農作業だけでなく、庭仕事や家事の手伝いをすることもあり、日々多様なことを学ぶことができ、とても充実しています。

私は、研修を通じて常に考えて行動することが大切だと学びました。

研修開始から2か月程の間は搾乳を行っていましたが、今は一人で作業する機会が多くなりました。日本では作業で失敗してから反省することばかりでしたが、人に確認できない状況となり、自分で失敗する前にミスや確認不足に気づくことが必須です。まだ自信がなく心配なことばかりですが、責任感をもって仕事をする力を身につけ、一人前になれるように努力していきたいです。

また、研修先の家族に感謝の気持ちを伝えたいと感じました。

研修先の家族は、明るく親切でとても素敵なんです。仕事で失敗することが多く自信がない自分に、「学ぶことが大切だ。次はもっとうまくできる。」と前向き

な言葉をかけてくれたり、楽しい会話をしながら食事をしたり、いつも



大好きなゲストファミリー



心の支えとなり感謝することばかりです。たくさんの方を教えてください。家族のために、仕事をする力や語学力をさらに向上させ、より多くのことを理解し、家族の力になれるように頑張りたいです。

1度しか経験できないこの1年間で悔いなく過ごせるようにこれからも努力を重ねていきたいです。

研修生からの便り



“ 全てが成長の要因

古村 隼大（令和3年度オーストラリア研修生 / 三重県）

研修農場：Koorelah Farm

私は3月末からオーストラリアのクイーンズランド州ボーエンという地域で日本人研修生として農業を学びにオーストラリアの農場で働きながら農業の勉強をしています。

5月上旬から Koorelah Farm というトマトの生産から販売までを行っている農場で研修をしています。トマトの単一栽培で総面積は270haの露地栽培ですがトマトなどの果菜の部類で日本ではあまり見ることがない大規模な農場経営をおこなっています。今はトマトの収穫の時期で、私は倉庫の中で選別されたトマトなどをフォークリフトで決められた場所に運ぶという作業をしています。正直、かなり忙しく余裕もあまりありませんがそのような環境下で人の真価が問われると自分自身で思っており毎日過ごしています。

プライベートはもちろん仕事では英語で会話になるため、思ったことを伝えられないことや相手が何を言っているかわからないことがしばしばあります。ですがその時にわからないことをわからないままにしないことが成長への一歩だと思っています。

毎日わからないことや伝えられなかったことはメモをしてその日に調べて次の日にもう一度聞くようにしています。

最初のうちから、農場にいる方が1から教えてくれるため作業に入りやすかったです。また僕の農場はワーカーではなく教育の一環としてこのプログラムをとらえているので、たくさんのことを経験できると思います。「やりたいこと、学びたいことをしっかり伝える」これが農業研修では大切だと感じました。

私の実家は祖父の代から農業法人として農業を営んでいます。そしてこれからは私の兄と私が中心となって経営していく立場にあるので、これからもっとお客様に喜んでもらえるような会社にしていくつもりです。

そのためには今一瞬を無駄にすることな



同期の仲間



品質管理のシステム



夢追い渡豪！！



ユニフォームもらいました。

くオーストラリアで自分を取り巻く環境すべてを吸収して今後も精進していこうと思います。

“ 机の上だけでは分からないこと。

森 祐子（令和3年度アプレンティス研修生 / 福岡県出身）

研修農場：岩田農園



4月から東京都内の岩田農園で実習を開始して、早くも3ヶ月が経とうとしています。最近では夏野菜の収穫が本格的にスタートし、いかに効率よく動けるかが作業を行ううえでとても重要となってきています。よく農場主に「一つの作業をする前に段取りを考えて行動するように」と言われ、足が動くよりも頭で考えるクセを身につけていかねばと思うものの指示された作業をするだけで、疑問を持って実習に取り組むことがまだまだと感じています。しかし、実習

を始める前に比べて、天気の様子や収穫したときに感じること（色合いや触感、においなど）気にするようになったと思います。「教科書通りにはならない。」自然を相手にしているからこそ、実習を通して肌で感じて動くことの大切さに気が付きました。

また、岩田農園では直売所も経営しており、店番もしています。商品の売り出し方やお店の改善アイデアなど自由に行えるので、そこも楽しみながら学んでいます。お客さんとの会話でもコミュニケーション能力を高めて、来年の海外実習でも活かしていきたいです。

他にも、ドイツ人がいて一緒に作業を行い、生活を共にしています。このような機会は一生無いと思いますし、文化や価値観の違いといった自分と異なる考え方に触れるのは、面白いです。それもまた一つの勉強だと考え、良い環境に恵まれたなと感じています。

そして自分自身、今回のプログラムに参加したのは、青年海外協力隊の野菜の栽培

隊員を目指しているからです。新型コロナウイルスの影響で、本来学校で行う実習は大幅に減りました。知識も不十分で迷っていた時に、スイスから帰国した先輩のお話を聞いて JAEC の存在を知りました。今では、このプログラムに参加して良かったと思います。自分の夢である協力隊を目指しながら、一日一日の作業を大切に、精進していきたいです。



アジア農業青年人材育成事業

史上初、2カ年度の研修生が同時に農家研修

令和3年度のアジア農業青年人材育成事業は、コロナ禍で研修生の来日が遅延していましたが昨年11月に入国し事業を開始しました。また、令和4年度のグループは例年とほぼ同じスケジュールで動いています。そのため、本事業史上初2グループが同時に日本に滞在しています。先輩研修生と後輩研修生と一緒に農場実習をする風景は新鮮です。



8月、R3グループの学課研修（茨城県鯉淵学園にて）



4月、R4グループ農家配属日

令和3年度

2021年11月22日～12月7日
基礎研修@成田ビューホテル
(タイ12名インドネシア10名フィリピン14名)
2021年1月～2月 農家訪問
(県によってはオンラインにて実施)
2022年3月13日～25日 学課研修@鯉淵学園
2022年10月18日～21日 最終研修・帰国(予定)

令和4年度

2022年4月22日～5月6日
基礎研修@ハートンホテル東品川
(タイ19名、インドネシア18名、フィリピン4名)
2022年6月～8月 農家訪問
2022年8月19日～29日
学課研修@鯉淵学園(予定)
2023年3月6日～9日最終研修・帰国(予定)



農家訪問の研修生@神奈川県
(左:インドネシア、右:タイ)

<日本 NGO 連携無償資金協力>

本会では、日本の農業技術の普及活動の一環として、ベンゲット州とケソン州の2州で実証圃場(デモファーム)を運営しています。日本とは異なるフィリピンの栽培環境の中で、日本の技術をどのように応用すれば地域の野菜生産に活用できる形になるのかを日々調査・研究しています。特に、炭や木酢液など、地域で手に入る材料で製造した有機資材を活かした、低コストで

誰もが取り組める野菜栽培技術を指導しています。

新鮮な野菜を消費者の元へ届けるためには、野菜に適した温度を維持したまま保存、輸送をすることが何より重要です。しかし、現在のフィリピンでは低温を保ったまま産地から野菜を輸送、販売できる流通の仕組みがまだ発達していません。今回の私たちのプロジェクトでは、野菜を最適な温度で一

時保存する事ができる冷蔵倉庫付きの野菜出荷場を建設しています。この出荷場を拠点として、新鮮な野菜をスーパーまで届けることを可能とするコールドチェーン流通の構築に取り組んでいきます!

フィリピンでの活動はHPやInstagramにてアップしていますので、ぜひHPを見に来てください。



JAEC 技能実習生事業

技能実習制度によって、フィリピンとタイから農業青年を受け入れています。これまで、長野県と沖縄県で実施していますが、今後はさらなる地域拡大を目指しています。そこで、JAEC の技能実習生事業がどんなものかをご紹介します、皆さんにご理解いただきたいと思います。

●技能実習生とは？

日本の農家で実務（業務）を通じて技術や知識を習得してもらい、母国の発展に役立つ人材を育てることが目的です。本会は監理団体として手続きを行い、研修生を指導し、受入農家への配属を行っています。

●JAEC 技能実習生事業の特徴

農家出身のやる気に満ちた青年たちです。フィリピンはルソン島中部の山岳地域にあるベンゲット州から、タイは主に、北部の山岳地域の諸州から選抜された若者たちがやってきます。

●技能実習生を受け入れるまでの流れ

実習生が来日するまでには約 10 か月ほど必要です。

①農家申込…本会にご連絡ください。申し込みに必要な書類をお送りいたします。

②書類申請…本会と共に書類作成を行います。

③実習生の入国…3 月を予定しています。※書類の申請状況により、入国の時期は多少前後します。

④入国後講習…約 1 ヶ月間日本語や技能実習制度に関する法律、日本で実習する心構えなどの講習を行います。

⑤配属…実習期間は実質 3 年ですが、修了後に双方の希望により、2 年延長することが可能です。

【2022 年度フィリピン技能実習生に会ってきました。】

初めまして！2022 年 5 月に入社した上野紘彰（ウエノヒロアキ）です。私は、この度技能実習生受入事業を担当することとなりました。よろしくお願いします。私の初仕事は入国後講習を終えた技能実習生の配属アテンドでした。今日はその時のことをレポートします。

4 月 6 日に来日した技能実習生たち 36 人（フィリピン 32 名、タイ 4 名）のうち、5 名のフィリピン実習生を連れて長野県の野辺山地区の受入農家へ。野辺山は高原野菜の生産で有名ですね。実習生たちは主に野菜農家で実習をします。彼らは期待と不安でドキドキしている様子でしたが、私も初仕事だったので同じように緊張していました。そこで電車の中で



は英語や少し覚えたタガログ語を交え、楽しく会話しながらリラックスするよう心がけました。それでも車窓に広大な畑が広がり始めると次第に彼らの口数が少なくなり、新生活の訪れを噛み締めているようでした。彼らは受入農家を親しみを込めて“おとうさん”や“おかあさん”と呼びますが、ぜひフレンドリーに温かい



関係を気づいてほしいと思いました。私が共に過ごしたのはわずか 6 時間ほどでしたが、待っていた“おとうさん”の車に乗り込む後ろ姿を見て、心からエールを送りました。そして同時に、新しい世界へ飛び込む彼らと新人の私自身を重ねる勇気ももらいました。

【タイ技能実習生受入農家の紹介】

長野県南部自然豊かな中川村の信州くだもの村・富永農園（富永和典さん：S43 米 2、創治さん：H19、米プラク）では、日光が降り注ぐ南向きの斜面で、さくらんぼ、もも、ブルーベリー、ブドウ、りんごなどを栽培し、ジャム、ジュース、市田柿、干し芋など自家製造して販売しています。

これまで長年アセアン諸国の研修生を引き受けて頂いていましたが、今年からタイ人の技能実習生も受け入れて頂いています。

今年 4 月から創治さんが代表となり、農園の経営を株式会社化しました。これから事業拡大していく計画があり、農園スタッフを募集（求人）しています。ご興味のある方は富永農園にコンタクトをして下さい。ホームページからお問合せできます。

URL <https://www.tominaganouen.jp/>



富永農園 のみなさん

協会の動き

賛助会員・寄付のお願い

国際農業者交流協会の活動をご支援ください！

●賛助会員

本会の活動にご賛同いただき年会費によって本会を支えて頂いております。希望される方は、協会までご連絡ください。

●寄付金

本会への寄付金は、公益目的事業の運営に用いることと定められています。
ご寄付にあたってはゆうちょ銀行（同封の赤色の払込取扱票）又は、銀行振込（振込手数料はご負担ください）をご利用いただけます。

払込取扱票	銀行振込先口座
ゆうちょ銀行 加入者名：公益社団法人国際農業者交流協会 口座番号：00110-8-538246 ◆領収証送付のため、通信欄にご芳名、ご住所、電話番号をご記入ください。	みずほ銀行 蒲田支店 普 通：3106914 口座名：公益社団法人 国際農業者交流協会 シヤ) コクサイノウギョウシャコウリュウキョウカ ◆領収証送付のためにご芳名等がわかるようにお振込みください。



賛助会員及び寄付者には、税額控除団体の証明書と共に領収証を翌年2月中旬までに送付しますので、確定申告にて税額控除を受けることが出来ます。

また、公益法人への寄付に関する詳しい説明のあるページをご紹介します。
https://www.koeiki-info.go.jp/pictis_portal/other/zeisei.html

有志の皆様のお声掛けによりたくさんご寄附をいただいております。おかげさまで令和2年度、3年度を何とか切り抜けることができました。役職員一同、言葉で表せないほど感謝しています。誠にありがとうございました。ご厚意にお応えすべく、ご期待に沿える事業運営に励んでまいります。

本会は公益社団法人であることから、皆様のご賛助、ご寄附を必要としております。これからも、ご理解、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

令和3年11月8日以降(NF251にて紹介後)に御寄付頂いたのは方々は次の方々です。(令和4年6月16日現在)

北海道/荒山直人 飯島芳一 池田博夫 稲葉紀也 稲葉正和 生出幸雄 大西勝規 奥田豊 小田久樹 金井秀明 金田幸一 金丸栄省 河崎繁 記虎孝一 弦間久吉 小林靖夫 柳原源士 坂根遼太 白倉憲和 新藤修 関谷達司 瀬口俊行 高木孝 高田浩 高田嘉秋 高野勝雄 高橋勝幸 高橋貞光 多賀雅美 高松正忠 武田敦 棚栄正 田中滋久 敦賀謙一郎 出倉利彦 中原敏美 峰須賀俊光 星光一 堀壮一 前田友司 町田哲 山北拓 脇敏昭 渡辺政吉 渡辺康雄 青森県/赤坂英夫 小笠原信雄 小野誠一 川村悦美 気田勉 工藤昌博 工藤幸宗 七戸堅 田嶋弘一 松田秀次 三浦博寿 三上富彦 村上隆昭 岩手県/伊藤善光 稲辺政美 小山田敦 菅野和廣 佐藤基一 藤澤理一 藤原敏彦 山手寛嗣 横石善則 吉田浩士 宮城県/阿部重雄 及川正之 小野寺栄悦 川村雄治 熊谷隆 斎藤和夫 高橋惣一 高橋信博 高橋均 橋浦義博 堀米莊一 秋田県/奥山雄公 加藤馨 金木晃 菊地幸彦 斎澤繁幸 工藤重仁 小林肇 佐々木雄幸 高橋尚也 高橋浩人 富田博文 野呂繁 深澤誠 藤原諭 丸山進 山形県/五十嵐一雄 伊原吉仁 上野浩一 粕谷博志 斎藤英一 菅井勝英 福島県/川口正伸 小松山善継 清野喜明 満山喜和 目黒吉久 矢部周蔵 坂本幸衛 茨城県/大原篤 岡野竜也 木名瀬幸吉 庄司敬一 長谷川由起子 村野秀典 栃木県/伊藤直樹 加藤利長 黒崎公 篠田雅久 嶋田浩 群馬県/今泉一也 大山岳志 岡部康之 小林卓郎 佐藤弘樹 須田真一 角田寿一 角田徳重 長沢正夫 彦部潔士 松元宇隆 森田精一 山崎雅志 埼玉県/浅見清美 石坂和幸 石山希 高野政一 斉藤洋一 柴崎久男 清水宏司 萩原勲 深井宏之 千葉県/岩澤正直 梅原正一 押尾彰一 末石博邦 高田祐幸 丹上啓 中丸利治 成山敬治 一級田俊樹 細川誠 武者利和 茂木義之 東京都/北澤幹一郎 瀬井富雄 村上保裕 神奈川県/秋本源一 石井真弘 石渡康郎 角田貴宏 小松勝 鈴木由行 関野行夫 藤巻芳明 二見浩一 武間恵洋 前田義雄 眞垣哲男 渡辺幸雄 和田良一 新潟県/安澤徹 荻莊誠 笠原昭栄 齋藤雅一 高野年正 長橋良穂 仁多見繁隆 松原守 富山県/梅原明 杉本明雄 高安重範 西村精志 石川県/酒井善継 福田進 藤村幸司 南出清司 福井県/池田充宏 土橋寛徳 中島喜平 山梨県/浅川善照 清水正 鈴木正秀 野沢昇 星野一雄 松本正治 長野県/米澤寛 帯刀佳郎 矢野彦彦 綿貫和弘 高見澤宣男 宮崎孝司 堀内明 岩田康宏 竹入修二 横井美智子 富永和典 湯沢一郎 久保田博 上田渡 岐阜県/石神五雄 小倉幸美 小林真平 田中弘 西郷功 古川憲男 横田俊光 池野武文 大石悦久 大関住男 菊間富佐夫 金原道彦 桜井昌之 佐野光司 鈴木敏一 鈴木廣高 清 貴 高野幸之 長澤清 中野文夫 本橋孝敏 愛知県/石川正文 大塚健盛 北村熱司 久野与吉 鈴木辰也 祖父江正 古川幸宏 山本孝徳 三重県/明石秀 浅井雄一郎 鎌田一幸 木田久主一 木田三男 小林勝彦 古村精康 野田保己 福広博敏 藤森忠雄 村瀬成郎 滋賀県/北村進一 國松善次 小島徳夫 田淵博 中井榮夫 井上宏典 京都府/竹村謙志 中野宏 藤井正弘 大阪府/梶本定敏 柳本庄司 西野安藏 兵庫県/石野雅治 加藤寿之 佐藤吉昭 汐谷保 谷義久 玉村伊久雄 長家修 西浦道雄 吉岡良治 奈良県/井上源一 扇谷茂 川島功嗣 中森光彦 福田順一 松井識樹 丸尾剛弘 和歌山県/泉廣明 伊藤雅秋 楠瀬忠彦 栗本孝彦 佐々木茂明 龍見慎一 田中泰寛 成川正芳 西垣俊秀 藤井栄一 前山善秀 宮村潤 鳥取県/梅津博文 鳥根県/石原順治 竹内恒治 古居忠 山根研一 岡山県/石川伸一 磯崎潔 嶋村圭一 妹尾始 立間政史 藤岡昭平 藤原勝美 藤原洋三 松岡晃見 村上金二 渡修 広島県/栗田賢 瀧奥拓二郎 丹下博文 中須良廣 宮之下也 森田幸秀 山田聖三 山口県/白井大和 村上成人 徳島県/赤井孝好 赤澤彰 片岡令子 楠正人 坂口常博 殿谷武司 富長伸司 船田久壽 三木康弘 吉田裕司 香川県/石原和昭 久保田勝利 瀧光光彦 間嶋亨 真鍋尚 愛媛県/大本昭裕 梶谷大治 菊池秀夫 斎藤達彦 下田正典 高門清彦 土居英昭 中田広志 広沢初志 保木泰宏 森崎正 森松美 業師神光利 山本宗一 西村初美 高知県/岡添裕章 岡本英雄 茂井雅昭 林一宏 森隆一 矢野知義 横田慎二 福岡県/石橋始 緒方圭 緒方勇輝 城戸慎吾 古賀尚樹 中野伸 西川益生 松尾研二 佐賀県/井崎光則 稲富篤 重隆 副島准一 塚原正一郎 西村義己 宮崎浩二 長崎県/里崎徳一郎 藤川勇 山口純典 熊本県/荒牧俊一 池福健介 一瀬俊郎 出田正明 今川和彦 上田栄治 大井和雄 大塚祐次 蒲島郁夫 河瀬憲雄 小路洋一 後藤哲英 五嶋義行 佐々木義次 佐藤政法 白石健生 杉本和浩 杉原薫 富岡義博 中川利美 中村浩士 橋口敏光 原道徳 毛利和友 宮崎県/大平落泰憲 甲斐義久 黒岩成成 米久田昭次 佐藤健司 中島康弘 東康夫 平川聡 丸尾笛郎 丸山裕次郎 宮島寛太 諸井健人 柚木崎靖 脇元三郎 鹿児島県/飯野幸博 飯森一志 板元岩雄 鶴川直子 榎園隆 大窪森雄 垣内貞徳 岸広光 國師正一 小園清司 後藤美利 栄章一 下田保幸 寺田郁哉 東博光 町田猛 宮迫泰倫 森永康治 安田実徳 和田洋一 沖縄県/奥平博一 神里敦夫 川満久雄 漢那宗善 宜野座巖 平良小百合 仲本英宏 比嘉嘉功 比嘉英憲 諸見里朝雄 山川良勝 吉本健夫 (順不同、敬称略)

また同じく、今回新たに賛助会員へ入会された方々です。

北海道/中澤誠弥 関谷達司 岩手県/佐々木嘉春 紺野啓 宮城県/松崎安典 横田久憲 福島県/大内俊昌 茨城県/大貫善之 大嶋聡史 本橋宏 栃木県/森島仁仁 群馬県/根岸宏行 山崎聡 埼玉県/江黒繁雄 石井豊史 羽鳥雄一 細田保浩 塩味長一郎 千葉県/北川貴基 東京都/岩田弦 神奈川県/伊藤洋文 吉田勝一 早藤義則 石川県/岡元豊 山梨県/甘利浩信 長野県/横森利明 高見澤宣男 富永和典 中村隆宣 福井県/建石正治 山田豊 愛知県/平田正樹 横山賢一 宮下優子 滋賀県/田淵竹男 京都府/小嶋直樹 和歌山県/富岡幸男 広島県/光永浩章 平田克明 愛媛県/工藤清志 福岡県/田中信喜 大分県/稲益大希 熊本県/河瀬憲雄 中川利美 宮崎県/園田武文 富満哲夫 河野雄一郎 沖縄県/林昌平 石川清友 (順不同、敬称略)

令和4年度通常総会

令和4年度通常総会は新型コロナウイルス感染症予防対策により書面表決により実施され、下記の議案が原案通り承認されました。決算書類等は協会のHPで閲覧できます。

基金管理運営委員会

令和4年5月26日に基金管理運営委員会が新型コロナウイルス感染症予防対策によりWeb会議方式で開催され、国際農業者交流事業推進基金の運用報告及び今後の方針等について話し合われました。

協会人事

採用 | ~ようしく願いいたします~

令和4年5月10日 上野 紘彰 (業務部受入業務課職員)
 令和4年6月23日 松永 侑子 (海外農村開発支援事業専属職員)

退職 | ~お疲れ様でした~

令和4年3月31日 佐藤 利春 (海外農村開発支援事業専属職員)

協会の行事

ブロック別国際化対応営農研究会

(国際化対応営農研究事業)

<北海道・東北ブロック>

開催場所：福島県（福島市内）

開催時期：令和5年1月中

※同日、組織会長及び事業担当者会議開催

問合せ先：一般社団法人福島県国際農友会

（一般社団法人 福島県農業会議内）

TEL:024-524-1201)

<関東甲信静越ブロック>

開催場所：栃木県（宇都宮市）栃木県総合文化センター

開催時期：令和4年11月21日（月）

内 容：基調講演 佐川友彦氏ファームサイド株式会社、活動報告

※同日、組織会長及び事業担当者会議開催

（於：同センター会議室）

問合せ先：栃木県国際農友会（栃木県農業者懇談会内）

TEL：028-647-2622

<東海・近畿・北陸3県ブロック>

開催場所：滋賀県（草津市）ポストンプラザ草津

開催時期：令和5年2月7（火）、8日（水）

問合せ先：滋賀県国際農友会 TEL 0742-27-7442

<中国・四国ブロック>

開催場所：島根県松江市内

開催時期：令和4年11月中

内 容：基調講演、事例発表

※翌日、組織会長及び事業担当者会議開催

問合せ先：島根県国際農業者交流協会（高井誠様方）

<九州ブロック>

開催場所：大分県別府市「豊泉荘」

開催時期：令和5年2月上旬

問合せ先：大分県国際農友会

大分県新規就業・経営体支援課内

TEL：097-506-3598

事業関係者の動向

訃報 謹んでご冥福をお祈りいたします。

Hugh Baker 氏

BBCC で研修生にアメリカ農業の講義をして頂いていた Hugh Baker さんが去る6月5日（日）にお亡くなりになりました。



Joanne Louise Syre 氏

同じく、BBCCにて英語のクラスを受け持っていた Joanne Louise Syre さんが6月22日にお亡くなりになりました。



西浦道雄氏

長年にわたり兵庫県国際農業者交流協会の会長をされていた西浦道雄さんが6月21日、お亡くなりになりました。

編集後記

本号の発行が例年より遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。コロナの影響こそ継続していますが、今年度は研修生たちが予定通り渡航し、予定通り来日できているため、職員一同2年振りに再開した業務に追われています。しかし、それもある意味で嬉しい悲鳴。このまま落ち着いていくと良いのですが...



週刊 月4回金曜日発行
月額700円、年額8,400円

■お申込みはお住まいの市町村農業委員会へご連絡ください

■発行所 一般社団法人 全国農業会議所

〒102-0084 東京都千代田区二番町 9-8 中労基協ビル
電話03-6910-1130（平日9～17時、土・日・祝は休み）
ホームページ <https://www.nca.or.jp/shinbun/>

パソコン・タブレット・スマホでいつでもどこでも新聞が読める

電子版を配信中!!

あぐりオンライン

検索



クレジットカード払いのみでのお支払いとなります

月4回・毎週金曜日・午前0時配信 購読料 月額500円・年額6,000円





ドイツから元受入農家のフンケンご夫妻と、山形の田中重孝OBが来会。5月24日

Vol.26 contents

ご挨拶.....	1	コロナに負けるな！ピンチをチャンスに！...	6
各ブロックからの報告	2～4	素敵な経営者たちⅡ.....	7
天地人.....	4	会員のひろば.....	8
人材の種を育て	5		

戦争と平和

国際農友会 会長
星智宏（宮城県 / S58 / 米2）



新型コロナウイルスは、多くの人々の生活と健康に被害をもたらし、下火になりかけたところで、2月24日にロシアがウクライナに軍事侵攻し始め、我々は対岸の火事的な見方をしていましたが、農業分野にこれだけ影響してくるとは予想を大きく上回ってきました。

ウクライナ侵攻は事態が長期化する中、日本の農業食料安全保障にも大きな影響が出ています。肥料や飼料をはじめハウス資材など幅広い農業資材の高騰が続く、経営を圧迫しています。特にロシア産肥料の輸入停止など園芸農家にあたえ

る影響は甚大です。

資材の高騰がいつまで続くのか見当もつかず、どこまで体力が続くか悲鳴にも近い声が聞かれます。輸入農産物も高騰している国内では、輸入小麦の売渡し価格が大幅に引き上げられ、製粉会社で小麦粉製品の出荷価格引き上げが広がっています。トウモロコシや大豆など他の輸入穀物も軒並み高騰し幅広く食品価格に影響を及ぼしていることから、原油価格の高騰等に対する早急な支援措置を期待するものです。

ウクライナの農業地帯もかなりの被害を受けているようです。復興支援も考えられますが、まずは国内農業の支援が急務と思われる。長期化するでしょう。我々国際農友会の活動もコロナの影響で芳しくありませんが今後もできる限り会員皆様とともに活動を展開して参りますので、ご協力ご支援のほど宜しくお願い致します。

海外研修啓発キャラバン活動報告

宮城県国際農友会 結城 翔太（H23 / 米コソビ）



啓発キャラバン中

現地での生活を感じてもらえるように工夫しました。短い時間の中ですべてを話すのは不可能ですが、自分自身この海外研修で素晴らしい経験ができたということは伝わったのではないかと思います。この海外研修事業が学生さんたちの進路の選択肢の一つになれば幸いです。

令和4年5月25日（水）、宮城大学太白キャンパスにて宮城県国際農友会の海外研修啓発キャラバンを実施いたしました。

当日は、国際農業者交流協会本部の職員から制度やスケジュールの説明をしてもらい、私は研修生OBとしてアメリカでの研修先の農場の紹介やエピソード、そこで得た学びや気づきなどを学生たちに話しました。農場の仕事現場の風景などの写真を多く取り入れ、



関東甲信静越ブロック

見習いたい人間力

栃木県国際農友会 会長 大森 則子（H16 / 米1）

コロナ禍にあり近年活動は控えめでしたが、今年の関東甲信静越ブロック国際化対応営農研究会は栃木県の担当ということで、かえって例年より忙しい活動状況です。ここ何年か途絶えていた交流が再開されるのは本当に嬉しいことだと思います。

栃木県国際農友会会長としては2年目ですが、まだまだ経験不足、副会長をはじめ懇談会事務局や国際農業者交流協会の方々に助けて頂いている状態です。自分自身一生懸命やっているつもりでも、このままでは子供のお使いで終わってしまうという危機感があります。会長職を通して出会う多くの方達より学び、成長し、少しでも貢献できればと色々模索する毎日です。

先日のキャラバン活動で昨年帰国したSさんに発表して頂きました。真摯に仕事に取り組む、自分に向き合い、青春の一頁を表すかのような爽やかな青



アセアン研修生受入式



アセアン研修生の農場訪問



啓発キャラバンにて

空の写真で締めくくられた報告でした。帰国後も農業法人を立ち上げ、大学の経営学コースを受講するなど精力的に活動しているようです。見習う所が多くあり、「人間、年齢ではないよな」と思います。逆に「来る前もトラクター乗ってたけど今から1ha田んぼうなるんだ」と会合が終わった夕方片道1時間の帰路を急ぐ70代の会員の方もいて、ここでも私は「人間、年齢ではないよな」と思うのです。実際のその背景はそこいらの若者より颯爽としていて断然かつこよかったのです。

コロナ、国際政情や経済状況の不安定化など暗いニュースを聞かない日はありませんが、海外で培った根性、少々暑苦しいまでの熱意、そして年齢に似合わない？それぞれが持つ力で皆この荒波を乗り越えていけるだろうと妙に確信しております。

農村の未来

滋賀県国際農友会 平井 貞夫 (S41 / 米2)

6月15日の新聞に「米粉、小麦代替で注目」と言う記事が出ていた。ロシアのウクライナ侵攻による小麦価格の高騰の影響もあり、小麦粉を含まないグルテンフリー食品の米粉が注目されていると言うが、その価格はkg50円。これだと1俵60kg当たり3,000円にしかない。29日の同紙の一面トップ記事は、「農業経営体100万割れ」。20年足らずで半減とある。今の米価ではこの傾向はまず止まらない。

昭和42年、第2回派米農業研修生として渡米した。この年の米価は7,677円。反収7俵前後だったので一反歩で米を作ると粗収入が5万円強。この頃会社勤めを始めた同級生達の初任給は、2万3,500円程度。つまり一反歩の田圃で米を作ると、新規学卒の初任給の2倍になった。

今は当時と違って公定米価は無いが、多分1俵1万2千円程度。反収9俵としても一反歩の米の売り上げは10万円余り。しかし、新規学卒の初任給は軽く20万円を超える。つまりこの50年



りの間に米の値打ちは4分の1になってしまった事になる。これでは農家戸数が激減しても不思議はない。

滋賀県西北部の高島市は、人口5万程の農村。私の住む南市区は、以前は町役場があった商店街のある町の中心で戸数180程度だが、それでも農事実行組合に所属する農家の戸数は30戸

を超える。しかし実際に米を作っている農家はほとんど減っていったのはわずか6軒になってしまった。今の米の値段では、誰がやっても合わないのだから、若手の大型農家では、今年から経費節減のため畔塗り・草刈りをしない。年貢米も払わないといひ出した。我が家もトラクターの調子が悪く四苦八苦しているが、とても買い替える余裕はない。どれか農機が使えなくなったら、もう百姓を辞めると言う農家ばかりになって仕舞った。こんな農村にどんな未来があるのだろうか。

中国四国ブロック営農研究会を前に

島根県国際農友会 事務局長 高井 誠 (S63 / 米2)

島根県のOBOG会である島根県国際農業者交流協会(以下、当会といいます。)は、1年前にも寄稿させていただきましたが、活動を再開したとはいえ未だ活発でない現況をばやいたところです。寄稿後も活動がしにくい状況でしたが、少しずつ連絡が取れる会員も増えてきました。しかし予算的にも取り組み可能な活動は限られ、個人的に県立農林大学校や県担当者に挨拶に行った程度でした。

転機は昨年末、アメリカから帰国したての中原一馬さんや、3年前に帰国し広島県の中四国ブロック営農研究会で体験発表した橋本順也さん(H28/アメリカ)の歓迎・懇親会を会員有志で行ったことでした。今年度の営



にお願ひし、了解していただき弾みがつきました。「よし、次は農大、県担当課、一度キャラバンをした島大にもこう！研修候補生にも会おう。」と企画したことが尽く話が進み、島大の先生には中四国ブロック営農研究会の協力も約束していただきました。

先日は協会の石原真職員に同行いただき、県担当課、島大、農大へ2度目の訪問を行いました。その際、岡さんの農場で農場実習中の学生と研修に興味を持って他の島大生にも面会し、若い彼らから元気をもらうことができました。さらにその後、農大でのキャラバン活動では中原さんにきてもらいました。農大ではまた説明のチャンスをしていただけそうです。

農研究会は島根県開催となり、会員にその情報を流し、身不相応の事業をどのように開催するか考えていた頃に、「現役の島根大学生が研修に興味を持っている。OBOGの農場で実習を引き受けてもらえないか？」と協会より相談を受けました。先の歓迎・懇親会参加者の岡康之さん(H14/オランダ)

結果として、今年に入ってトントントン拍子に事が進んでいます。偶然的な成果であり、課題は山積しています。当会にとって大事業である中四国ブロック営農研究会の成功に向け、皆様の更なるご理解とご支援・協力をお願い申し上げます。

沖縄県国際農友会の活動について

沖縄県国際農友会 会長 漢那 宗善 (S 54 / 米 2)

沖縄県国際農友会は名称を新たに再発足して早6年になろうとしています。直近の約3年間は、コロナの影響で、総会をはじめ、ほとんどの行事や活動が中止、役員や会員相互の交流も疎遠になっており、組織結成当初からの組織強化の課題も道半ばです。

沖縄県内のコロナ発症者は今年1月以降ずっと新規感染者数が高止まりしており、6月末になっても未だに千人を超え、当面はすぐに大人数での会合は開催できそうにありませんが、秋



農業大学校でのキャラバン活動



タイの農業研修生・技能実習生受入

には総会を開催しようとして役員会で確認しています。幸いにも、2019年度アメリカ研修生の宇根和孝君が石垣市で肉牛とフルーツの生産を頑張っており、離島の支部組織の中核になってくれるものと期待しています。

私たちはコロナ禍でも沖縄県立農業大学校でのキャラバン活動に注力してきました。大学校を卒業した先輩と現役研修生から最新の海外農業事情や農場体験の報告が聞けるということで、すこぶる評判がいいです。

そして、アジア農業青年研修生及び技能実習生の受入れをしています。現在は、会員の4農場で、研修生5名と技能実習生2名(後で4名に)です。

最後に岸本辰巳OB(H2/米2)のコーヒー農園を紹介します。

コーヒー栽培は、沖縄本島北部が北限と言われていますが、岸本さんは9年ほど前、名護市山中の耕作放棄地3.3haを借りて約2500本のコーヒーの木を植え、仲間と共に「中山コーヒー農園」を始めました。

昨年は、コロナ禍で農園経営が困難に陥る中、コーヒーの木オーナーを募るクラウドファンディングに取り組んだり、農園内の自然散策&コーヒー豆収穫と自家焙煎体験、ハーブ茶焙煎など「観光体験型農園」をめざしています。ヘゴの木やシダ植物など亜熱帯植物に囲まれた自然の中で飲むコーヒーは格別です。沖縄に来た際は立ち寄ってみてください。



岸本 OB のコーヒー農園



北国のはる

国際農友会 理事

藤田 春恵 (岩手県/H14/米1)

今日、我が家に4箱目のさくらんぼが届いた。

5月某日の日経新聞によると、山形県の今年のさくらんぼ収穫量は「平年並み」の1万3300トン程度になりそうで、春の凍霜被害が甚大だった昨年度に比べると約45%増の見込みとのこと。送り主の友人にお礼の電話をした時も「去年に比べて今年は随分良いよ!」と明るい声を聞いて安心。

私の牧場の周りでは、春にはゼンマイから始まり、こごみ、コシアブラ、タラの芽、ウド、シドケ、わらびとあらゆる山の恵みが採れる。

日本屈指の豪雪地帯のため畑を使えるようになる時期が遅く「土に生えているフレッシュな緑の食べ物」は長い冬に耐え春を迎える喜びを味覚から感じられる大事な存在。そして山の山菜は市販のものよりも味、香りともに別格である。

山菜の時期は牛舎作業の隙間時間で山に行き、あまりにも採れすぎるので昔からお世話になっている遠方の人たちに送るようになったのはいつからだろう。

贈り先も生産者や食関係の人が殆どなので時期になるとお返しにと冒頭のようなさくらんぼ等をいただいたりするのだが、丹精込めて育てた農産物やこちらの嗜好を考慮して贈ってくださる小包から、ああ、あの人は今年も変わらず息災でいるのだなと想像できて嬉しい。

旬のもの、採れたてのもの、完熟のもの。市場の流通に乗らない、だけど本当に美味しいものを農に携わる人は其々持っている。農産物ゆえに産地や季節があり、それを交換するやりとりは趣があるなあと思う。

「今年も山菜を採りに山に行けるくらいに元気でやっています」という気持ちで私は日頃なかなか会えない人たちに荷物を送る。

SNSやメールのような主流にはならないコミュニケーションだし沢山の人はできないが、色んな事が手軽で早く済む現代にあって非効率で手間がかかるこのやりとりは結構好きなので、来春もまた山に行こうと、山盛りさくらんぼを見て思う初夏である。



人材の種を育んで

櫻井 耀 (岡山県 / H27 / アメリカ)



我々『海外農業研修』の世界では、研修する者を Trainee (研修生) と呼びます。スポーツだとトレーニングを積んで試合に臨むように、研修を終えて巣立った OB・OG の同士は農業を中心に、様々な舞台で試合を繰り広げておられます。

さて、筆を走らせる私がどんなリングで戦っているか。それはまさに、新たな Trainee を生む日本の地方自治体です。実態として、少子高齢化や経済の縮小により 2040 年には現在の 1,800 あまりの自治体のうち半分の 900 近くが消滅するといわれています。

この会報誌で度々目にする『新たな研修生発掘、求む!』といった喫緊の課題でさえも、日本全体のパイが縮小している以上、若者が各分野で取り合いになる現状も想像できます。

私はアメリカ研修から帰国後、恩のある研修実施機関、JAEC に縁も重なり奉仕することが叶いました。そこで、全国各地を行脚しては新たな Trainee という花の『つぼみ』や、OB・OG のみなさまといった沢山の出会いに恵まれました。その一方、大学に入学する者が 100 万人を切っている今、4 割の市立大学が定員割れ、各地にある学校の運営も課題となっ

ているのが現状です。

会報誌からわかる先輩 OB・OG の今。そして愛媛県の清家正亀先輩 (S58 米 2) が主宰する YouTube 配信『アグトレ・サロン』からも、『海外農業研修』は理想のトレーニング環境であり、それぞれの舞台で活躍する選手を輩出しています。例えるなら、スポーツ選手の憧れる『味の素ナショナルトレーニングセンター』の農業版といった位置付けでしょうか。

そのような歴史と十分な実績のある研修システムが存在しても、元気いっぱい花を咲かせようとする『つぼみ』の存在なくして研修は成り立ちません。そしてその『つぼみ』とは、全国各地の小学生や中学生といったこれから芽の出る『種』の段階より、温かく見守り、時には手をかける必要があるかと思っています。

私は現在、憧れの先輩が多く活躍する岡山県を拠点に、中小高大学生への社会教育、時にはその指導者やビジネスパーソンに対して学びの空間を創出しています。

この中で、海外農業研修に参加する上では欠かせないスキルとしてのコミュニケーション能力、異文化理解や多様性、日本の昔からの知恵や最先端の技術を学び、自らが地域を担い、ひいては日本を支えるくらいの気概を持ってもらえるように活動しています。

取り組みの中で、素敵な同期や先輩、後輩の存在は宝です。実際にニューファーマーズ No. 250 に寄稿された先輩の上江洲聖也さん (H24 米コンビ)、No. 251 で青森の短角牛生産者で同期の佐々木基さん (H27 アメリカ) 等、協力を得ながら地域の幅広い学びに繋がっております。また、私がアメリカ研修時代の現地職員であり師と仰ぐ、現在は岡山県在住の吉永巧さん (S52 米 2) にも豊富な経験から、トークショーにて貴重なお話をいただきました。(QR コードよりその模様をご覧ください)

研修に参加するに値するような立派な『つぼみ』を地域からより多く輩出したい。そんな熱意の元、これからもリングに稲妻走らせます!



コロナに負けるな！

ピンチをチャンスに変えろ！！

岩澤 正直（千葉県 / 埼玉県 / H5 / 米2）

アメリカ2年制プログラムへ参加したのをきっかけに多くの事に出会いました。やはり、メキシコ人との出会いは大きかったです。帰国後は、英語、スペイン語を勉強しメキシコ人と知り合いになりラテンダンスサルサを始めました。

アメリカでの研修に参加された方は、全員ご存知でしょう。言葉なんか

訪したことがありました。実家すぐ近くの入浴施設、お食事をする所には、広いスタジオがあり「梅狩り&サルサコラボツアー」なんてできるよね？なんてお話ししておりました。

昨年の第一回目は、緊急事態宣言が発令中だったのであまり期待しておらず、日帰りの5人くらいの参加しか見込まれないだろうと予測しておりました。

締切、それでも参加したい方は日帰り対応です。それにも関わらず、昨年も今年もキャンセル待ちで参加できなかった方がいるほど大ブレイクです。これも、サルサの力ではないでしょうか？

ダンスパーティーは、音楽ボリュームをMAXで流す都合上、会場は、だいたい地下にあります。そのた



サルサ友と梅の収穫



素晴らしいホールでダンス



たくさんの参加者がありました！

通じなくてもよい、明るく陽気でも一緒にいてくれるのがメキシコ人です。

サルサ界のサルサ友（サルサで知り合った友達をサルサ友といいます）は、ネガティブな考えや発言はタブーです。マスクをしてダンスをするのも日常になりました。

以前サルサのイベントが、農業に興味があると言って我が岩澤農園に来

した。

ところが、ふたを開けてみるとんでもないです。「埼玉県なんかすぐ隣だから、せつかくだから泊まりで行きたい」「緊急事態宣言中だから旅行に行くところがない」「行けば観光スポットを岩澤さんに無料で案内してもらえ」と参加者がどんどん集まりました。

ログキャピンの定員の都合上25名で

め、たまにDJを中断して換気タイムを設けたりするものです。ところが、この施設はガラス越しに太陽光が差し込む森の中なので安心です。テーマが梅なので、レストランで梅料理、バーベキューも梅にちなんだおもてなしをしました。参加者のみなさんからは、「このイベントやばいよー!!」と大評判です（笑）

近日
完成！

海外農業研修生たちの活躍をまとめた

素敵な経営者たちⅡ



海外農業研修に参加した後、その経験とバイタリティーから、全国、世界中の農業分野で活躍する仲間たち。同期や同郷の仲間についてはそれぞれ知り合う機会があっても、それ以外の方々がどんな農業をしているのか、また、どんな考えを持っているのかを知る機会はありません。

そこで、各都道府県の組織にご協力いただきながら各地で活躍する海外農業研修既修者の情報をまとめた冊子、「素敵な経営者たちⅡ」を制作することとなりました。

実は、制作計画は2年前からありましたが、コロナ禍で伸び伸びとなってしまうご期待頂いている皆様を長くお待たせすることになってしまいました。

この度、海外派遣事業70周年を記念して9月に発刊する運びになりました。つきましては、改めて本冊子をご紹介しますとともに、ご注文をご希望される方にご案内をいたします。

仲間の活躍を知ることができる 唯一無二の資料！

【素敵な経営者たちⅡ】

発行：国際農友会

完成予定：令和4年9月

販売価格：10,000円（税込）※送料込

掲載内容：農業経営者200名、

オピニオンリーダー50名

（経営内容、海外農業研修が自身に与えた影響、将来のビジョン etc.）

ご注文のご依頼は、
公益社団法人国際農業者交流協会
電話 03-5703-0253

E-mail agtre@jaec.org

またはQRでお申し込みフォームへ。



ご注文に際しては、お名前、送付先住所、必要部数を必ずお伝えください。

会員のひろば

会員の動向 (敬称略、順不同)

同期会

昭和 38 年度派米農業実習生同期会

開催日：令和 3 年 11 月 2 日

開催地：徳島県



叙勲・受賞

令和 3 年秋 黄綬褒章 板元 岩雄 (鹿児島県 /S42/ 米 2)

令和 3 年秋 旭日単光章 広野 正則 (香川県 /S47/ デンマーク)

令和 3 年 12 月 東京農業大学の経営者大賞 村上 保裕 OB (東京都 /S53/ 米 2)

令和 4 年 2 月 日本農業賞大賞 岡元 豊さん (石川県 /H1/ 米 2)

令和 4 年 4 月 草の根国際功労賞 西浦 道雄 (前兵庫県国際農業者交流協会会長)

ご逝去

平成 20 年 5 月 廣 春隆 (佐賀県 /S29/ 米 1)
 平成 30 年 2 月 城田 和人 (埼玉県 /S33/ カナダ)
 令和元年 福多 祥 (青森県 /S40/ 米 1)
 令和元年 6 月 井上 正典 (大分県 /S35/ 米 3)
 令和元年 11 月 千田 寿一 (岩手県 /S42/ ドイツ)
 令和 2 年 1 月 八代 善行 (静岡県 /S42/ 米 2)
 令和 2 年 1 月 道広 喜一 (岡山県 /S46/ 米 2)
 令和 2 年 2 月 米村 賢一 (熊本県 /S35/ 米 3)
 令和 2 年 6 月 中野 伸 (福岡県 /S27/ 米 1)
 令和 3 年 1 月 川辺 虎雄 (香川県 /S42/ 米 1)
 令和 3 年 1 月 新井 克始 (栃木県 /S46/ 米 1)
 令和 3 年 2 月 小沢 庄一 (愛知県 /S36/ ブラジル)
 令和 3 年 2 月 高木 芳教 (兵庫県 /S35/ 米 3)
 令和 3 年 3 月 福島 守 (和歌山県 /S34/ 米 3)
 令和 3 年 3 月 柳沢 秀一 (栃木県 /S45/ 米 1)
 令和 3 年 5 月 井戸沼 勝三 (福島県 /S40/ 米 1)
 令和 3 年 8 月 秋草 重幸 (鳥取県 /S35/ 米 3)
 令和 3 年 9 月 三井 信昭 (長野県 /S34/ 米 3)
 令和 3 年 9 月 中野 明 (大阪府 /S32/ 米 3)
 令和 3 年 9 月 山路 一男 (三重県 /S40/ 米 2)
 令和 3 年 10 月 伊賀 正泰 (愛媛県 /S57/ 米 2)
 令和 3 年 11 月 森田 正清 (香川県 /S32/ 米 3)
 令和 3 年 11 月 河上 貞也 (鳥取県 /S41/ 米 2)
 令和 3 年 12 月 来島 さやか (山口 /H5/ ドイツ)

令和 3 年 12 月 西村 仁 (愛媛県 /S41/ 米 2)
 令和 3 年 12 月 中山 敬彦 (鳥取県 /S27/ 米 1)
 令和 3 年 12 月 島田 富雄 (栃木県 /S39/ 米 1)
 令和 3 年 梶原 次男 (福岡県 /S30/ 米 1)
 令和 3 年 上野 照雄 (熊本県 /S33/ 米 3)
 令和 4 年 1 月 宮本 久雄 (北海道 /S45/ 米 1)
 令和 4 年 1 月 岩下 洋蔵 (鹿児島 /S38/ 米 3)
 令和 4 年 3 月 梅本 弘 (北海道 /S52/ 米 2)
 令和 4 年 4 月 鈴木 孝治 (愛知県 /S49/ 米 1)
 令和 4 年 6 月 伊藤 隆志 (愛媛県 /S40/ 米 2)

年月不明 友口 慶児 (熊本県 /S38/ 米 3)
 年月不明 相場 講造 (栃木県 /S32/ 米 3)
 年月不明 関根 啓一 (群馬県 /S34/ 米 3)
 年月不明 渡辺 勝次郎 (栃木県 /S39/ 米 1)
 年月不明 脇本 源一 (愛媛県 /S47/ 米 2)
 年月不明 友口 慶児 (熊本県 /S38/ 米 3)
 年月不明 久保 致 (鹿児島 /S38/ 米 3)
 年月不明 古川 三夫 (東京都 /S33/ 米 3)
 年月不明 田中 一男 (宮崎県 /S34/ 米 3)
 年月不明 川野 勇 (鹿児島 /S38/ 米 3)
 年月不明 佐藤 文洋 (宮城県 /S54/ 米 1)
 年月不明 野内 栄一 (福島県 /S41/ ドイツ)
 年月不明 高山 良雄 (青森県 /S35/ 米 3)

「土からの学習」

幼児から研修生まで、その「やろう！」とする気持ちを育み伸ばします!!

もりなが ひろなお
森永 大直 (大分県 /S63/ 米 2)

・森永農園園主：梨の生産・販売・作業受託
 ・JAEC：US 西日本講習所長
 ・国際農友会理事
 ・大分県国際農友会 事務局長
 ・学研教室指導者：庄内元気な教室 / ゆふいん元気な教室
 ・雲取神楽社副代表



編集後記

大正時代 (1920 年頃) に流行ったスペイン風邪も、何度も波があり数年間マスクの生活が続いたようなことを聞きました。人間の生活は 100 年たった今でも何も変わらないものですね。科学がいくら進歩しても人間が大きく変わることはできない。コロナ禍から学ぶことは、人の弱さでしょうか....。

